



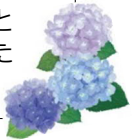
高大連携室だより



東京都立大学
アドミッション・センター
高大連携室

Withコロナ時代が幕を開け、キャンパスではマスクのない学生も見られるようになりました。大学での教育や研究はもちろん、高大連携室のイベントもリアルな経験を重視して対面で開催しています。本号では、今年度から新たに高大連携に関わる本学教員と、社会で活躍する高大連携室院生スタッフ卒業生からの寄稿とともに、この夏のイベントについてご紹介します。これからも、高校の先生方、学内教職員の方々のお力をいただけますようよろしくお願いいたします。

高大連携室室長 河西奈保子(大学教育センター教授)



いま、高大連携への期待

アドミッション・センター長 教授 津村博文



津村博文

アドミッション・センター長

私の所属する数理科学科の学生から、自分は計算が好きなので数理科学科を志望しましたという声をよく聞きます。計算によって難しい問題を解くことは数学の醍醐味ですので、そのことが志望動機になるのはよくわかります。ただ大学での数学は計算ばかりではなく、より抽象的な概念を学ぶことが求められます。これまで全く別のものだと思って学習してきた事象が、実は抽象的には同じ構造をもったものであると気づくこと（ポアンカレ原理）がとても大切です。近年、高校で必修化された「探究学習」では、技能を学ぶだけでなく、それにより捉えた事象の背後にある概念を考察し、さらにそれを社会で起きている別の事象に結びつけるという、壮大なテーマでの学習が求められています。このあたりをスムーズにつなぐことは高大連携の重要な課題の一つであると感じます。そのために大学側に期待されることは何でしょうか。専門知識をそのまま提供しても、難解な言葉や抽象概念に躓いてしまう可能性がある一方で、高校生への理解を優先するあまり、先人の創った高尚な研究成果を表層的に語るのもやや本末転倒です。

学問の先端に行く研究者や研究の途に就いたばかりの大学院生が、高校生に伝わる言葉

で感性、知性をぶつけて、その根底にある素晴らしい世界を語り伝えていくことがとても重要であると感じます。それにより高校生にも真理の奥深さが伝わり、新たな視野が開ける、このような形で高大連携の働きが実を結ぶことを願っています。（理学研究科 数理科学専攻 教授）

高大連携室にいま求められているものとは一着任の挨拶に代えて 特任助教 浅利みなと

4月から高大連携室に特任助教として着任した浅利みなとと申します。3月まで高大連携活動には大学院生スタッフとして携わってきましたが、その中で高大連携活動の必要性がますます高まっているのを肌で感じてきました。入試形態はここ10年で一気に多様化し、それに併せて高校生も自分に合う大学を様々な基準で選ぶようになってきています。同時に大学側も自らの強みを生かしたブランディングが求められています。そして、今まで以上に密な高大連携活動が必要とされています。それは2022年度に新学習指導要領が施行され、高校だけではカバーしきれない範囲、特に探究学習に関して指導・支援が大学に求められていること、さらに、高校生に大学や研究をより身近なものに感じてもらうなど、大学という組織の社会的存在価値を高めていくことが必要になっているという社会的な背景によるものです。

都立大の最大の強みは、様々な興味関心に応えるだけのカリキュラムや研究環境を有していることだと考えています。自分とは違う背景や興味関心をもった学生との交流もまた大きな刺激になります。現在一緒に働いている大学院生スタッフの所属や専門も様々で、スタッフの研究の話聞くのもこの仕事の楽しみの一つです。このような都立大の強みを生かしながら、高校生の進路選択や探究学習のサポートに尽力していきます。（大学教育センター 特任助教 / 人文科学研究科 客員研究員）



浅利みなと

特任助教

2023年夏 東京都立大学 イベントのお知らせ

7/17 (月・祝)・8/12 (土) 東京都立大学南大沢キャンパスでは 来場型とWebにて 大学説明会(オープンキャンパス)を開催します(ご来場の予約は6/16(金)正午に開始します!)

➡学部学科別ガイダンスや模擬講義などを行います。詳細は本学HPをご覧ください➡



学校教育の現場から～元院生スタッフより～ 宝仙学園中学・高等学校 教諭 勝見公紀



勝見公紀

宝仙学園中学・高等学校
教諭

こんにちは。2017年に首都大学東京大学院人文科学研究室を卒業した勝見公紀と申します。大学院在学中の2年間、「高大連携室」の院生スタッフとして働いていました。

高大連携室と聞いてパツと思いつくのは「あ、それやとくよ(やっといたよ)」という言葉です。高大連携室は中学生や高校生を対象に様々な企画を催すのですが、その準備の段階でこの言葉を皆がよく使うのです。

高大連携室のスタッフは命令や指示によって動くのではなく、各人が自分の仕事を責任持って行います。そして、余力あるときは「他人の仕事の領分」と思われるところにも取り組んでしまいます。「あ、やとくよ」の精神です。一人がそのように動くと、「あいつがあの時、俺の代わりにやってくれたから、今度は俺の番だ」となります。そうして「あ、やとくよ」の輪が広がっていきます。仕事が立て込んでいられる時もスタッフ同士で不仲になった記憶はありません。「高大連携室ってどんなところ？」と聞かれたら、私はそのように答えます。

院生スタッフはそれぞれ異なる研究室に所属しているので、高大連携室の仕事以外で一緒に働くことはめったにありません。ほとんど他人に近いような人たちと一緒に仕事をする中で信頼関係を築いていきました。今思えば高大連携室の先生方から、「協働」について体験的に学ばせてもらったのかもしれない。

私は現在、中野区にある私立宝仙学園中学校・高等学校で教師をしています。教育の現場で「協働」や「主体」のモデルに間違いなく、高大連携室の「あ、やとくよ」精神があります。どのようにクラスの生徒たちと協働的な環境を作り出せるか。研鑽の毎日です。

2023年度 大学説明会(オープンキャンパス、7/17・8/12)高大連携室の企画

【1】高大連携室の個別相談

都立大の学生が、学部・学科などの進路選びや高校での勉強方法などのご相談にお答えします。

【2】特別講演 高校生と保護者の方へメッセージ!

「充実した大学生活を送るために～探究的学びのすすめ」

「大学はどのようなところか? 高校生活の過ごし方」「探究学習から大学の学びへ～探究をうまく進めるヒント」の2本の講演を行います。保護者の方も是非ご参加ください。

【3】都立大生・卒業生によるトークイベント

高校生や保護者の方に向け、都立大生や卒業生のリアルな声をお届けします。お気軽にご参加ください。



オープンユニバーシティ 2023年度夏期講座

7/22講座スタート!
参加募集中!

高校生のための特別授業 「探究の悩みを一緒に解決しませんか?」

講師：板倉孝信 大学教育センター 准教授

詳細は東京都立大学オープンユニバーシティWebサイトをご覧ください <https://www.ou.tmu.ac.jp/web/>

日野キャンパス大学説明会 (オープンキャンパス) を8/26 (土) に開催します

荒川キャンパス大学説明会 (オープンキャンパス) を8月中旬に開催します

※いずれも事前予約制

大学説明会に参加できない方に向けて・・・

●夏休みも高大連携室では南大沢キャンパスの見学を受け付けています
キャンパスを見学したり、進路選択・学部学科選び・勉強について大学院生に相談してみませんか。スタッフみんなでお待ちしています。(事前予約制)

●都立大OCW(オープンコースウェア)では都立大の先生の授業動画を公開しています <https://ocw.tmu.ac.jp/>

大学説明会での模擬講義などを視聴しませんか。探究学習にも役立つ情報が満載。



東京都立大学アドミッション・センター高大連携室
東京都八王子市南大沢1-1 東京都立大学南大沢キャンパス 1号館106室

開室：平日10時～17時 土曜11時～17時 (祝日/入試日を除く)

● TEL:042-677-2015 ● Mail:koudairg@tmu.ac.jp

最新情報はTwitterを
ご覧ください

HP

ホームページ



Twitter



Instagram



TMU.KOUDAIENHEI